

まあ比べるけど、劣等感とかではないね。どっちか

というどジェラシーだから。

語り手 猪飼ひより(三期生 フォトグラファー) 聞き手 伴 苺

*

学生時代

―それでは、立命館時代のお話を聞かせ頂きたいです。まず、高入生として、(事前に配布された語り手の詳細情報に)書いてあったと思うんですけど。

高校生から！高校生からしかなかったかな。

―なんで立命館守山高校なのか教えて頂きたいです。

あー。最初、(聞き手が)守山市民だからわかると思うけど、中高一貫のさM中、M高(守山市の高等学校)あるやん。あそこの中学受験受けて、落ちちゃったんだよね。で、落ちて、全然腑に落ちなくて。私が。抽選が最後にあるんよ、あそこ。当時は。で、抽選で落ちましたっていうのは分かって、そんなん運やんって思ってた。めっちゃくちや悔しくて、で、そのM高より頭良い学校に絶対行くぞって思ったらじゃあZ高校か、立守しなくて当時は。じゃあ立守行こうって、近いし。立守にしたっていう(笑)。もうね、ジェラシー。ジェラシー一本で、ははは。で私、三期生だから、みんなが揃った年。中学生いなかったかな、最後の方ちらっと。

―なるほど(笑)。だからその、高入生というより、元祖の立命館生っていう感じ(笑)。

そうそうそう。

―じゃあ、学校生活三年間あったと思うんですけど、映像(語り手は立命館大学映像学部を卒業)を志すきっかけは、文化祭以外でもあったのですか？

色々あるんだけど、学部選択の時、正直芸術以外に興味が無いというか。多分どっかで、田辺記子先生に「あんた映像向いてんじゃない？」みたいな感じで、ポロッと言われて。確かに、ってなって。文化祭があったからだと思う。高校二、三年は(担任が)田辺先生だったから。確かにって思いつつ、ずっと習い事が芸術系多くて。芸術というか、表現系。なんていうか、クリエイターになりたかった、ちっちゃい頃から、ってなった時に映像学部かなって。

*

パソコンが元々好きで、その延長線の流れで高一の時に文化祭じゃないんだけど、良いクラスだったから。思い出ビデオみたいなの作ろうみたいな、DVDみたいな、写真のスライドショーみたいなのを、作りたいよねって。(当時流行ってた)デジカメを学校に持って行って良かったから、私も持って。元々写真好きだったから。それを繋げたら一つの映像になるよねって。じゃあちよっと独学でやってみるわって、作って。それで、ちよっとハマって、ちよっと勉強してっていう感じ。ていうのがやったのがきっかけ。高一の終わりに、かな。

*

―じゃあ、映像制作が好きになった理由はなんですか？

当時の映像制作が好きだった私的な理由でいうと、今は全然好きじゃないんだけど。当時は多分、同世代の人ができないことを私ができるっていうのが好きだった。そうね、当時はYouTubeとかも見るのが億劫な

時代だったし、Chrome の存在もまだなかったから。本当手探りの状態だったけど、ちよつと皆よりできるみたいのがあるから好き。そう、当時は好きで。けど今は、(映像は)全然好きじゃない。今はね、めっちゃ避けてる。映像を(笑)。写真始めたきっかけが、映像を作るのは自分一人だけじゃないんだなってまず分かって。もちろん一人でやってる人もいるんだけど。なんて言うのかな、会社とか映画とかになると、脚本家がいって原作があつて、カメラマン、ライトする人みたいな。分業して、それをまとめる人がいてみたいな。あ、こんなに人が関わるんだって思つて。自分の思つてる画が一〇〇%撮れるわけじゃないって分かつて。なった時に、なんかちよつと違うなあつて。その、映像って写真の連続なのね。写真がばらばら漫画みたいな感じで繋がって映像になつてから、写真がそもそもの大元で。そうなった時にちよつと写真の勉強しても良いなって私の中でふわつと出てきて。じゃあちよつと検索で「写真 専門学校」で調べて、一番上に出てきたVって学校があつて。説明会があるって書いてて、じゃあ行つてみようって思つて、大阪まで行つて聞いたたら、あと入る枠が三人しかないですって言われて。そのまま願書出してきちやつて。勉強してるうちに、写真は自分でパシャつてやったのが全てだから。映像は流れで考えなきゃいけない。ずっと連続してるし、こう、物語っていう内容がついてくるのが複雑すぎて、私の中で処理しきれなくつて。てなつたら、じゃあ写真で食べていける道もあるから、そっちの方が向いてるんじゃないかなって思つて。そこでフォトグラファーになろうって思つて。(フォトグラファーになった理由は)映像学部に行つて、映像は違うなつてなったのが大きいかな。当時、高校の中で映像は誰も作れなかったやん。クラスの中で。私しか作れなかったから。なんだけど、他に作れる人の中に私が入つても、突出できない

— 大学、立命館の話に戻るんですけど。送っていただいた紙(語り手の詳細が記載された紙)に、芸術系を出ていないからこそ強みつてあつたんですけど、それはどういう場面で実感されましたか？

映像学部に来る人は、マニアックなくらい、相当映画好きな人もいれば、高校でそもそも映像科みたいなのがいる人もいたし、芸術大学の予備校みたいな通つてた人もいた。結構そういう人がいっぱいいて。どつちかというとは私は、芸術ではない方から来たから。なんだけどやっぱりその、芸術系以外を逆にめっちゃ知ってるから。他の世界をいっぱい知ってるからこそ、高校で。高校の周りがさ皆芸術芸術してたらさ、自分も芸術行こうつてなるけど、そうじゃなくて。この子はお医者さんになるし、この子はお店開いたりとか、いろんな人がいる中で私は自己表現できる方に進みたいっていうか。立守にいたら多分、もっと他になる道はいっぱい無数にあるけど、それでも(自己表現する分野に)行きたいんだなって思うっていう。だからこそもっと専門的に学びたいなって思つて。芸術芸術してない環境に居るからこそ、なんでも吸収できたから。そもそも知らないからっていう。高校の勉強では習わないし、会社も結構美大の人とかが行くところに就職したから。そういう所は結構あるかな。

— なるほど。自分もそういう、立命館大学じゃなくて芸大受験してたら

人生どうなったんやろとか考えるんですけど、立命館大学でぶっちゃけ良かったっていうか。もし人生の選択を変えられるなら変えますか？

過去に戻るとして？ えー、いやあないかな。立守が一〇〇%良かったと思って。素晴らしい学校だと思って、通ってて。

―録音してるからってそんな！

いやいやいや(笑)。けど本当に、人生で一番高校生活っていうのが楽しかった。学祭しかり。高校の友達が今も一番仲良いのよ、私。めっちゃそう。しょっちゅう会ってるし今もLINEしてるし(笑)。ていうのもあるし、単純に良い人がいっぱい居た。本当に。民度が同じ。ふふふ。民度が良いじゃなくて、同じ。私と同じ価値観を持ってた。部活も最高に良かったし。本当に美しい思い出が全部詰まってる。

―一番の思い出ってあえて言うならどれですか？

それはね、あすなる祭ですね。高校はね、正直全部のあすなる祭なんだけど。一年生の時は劇がなくて、幕みたいなのをクラス対抗で作ってたのよね。クラス幕みたいなの。(教室での)出し物はなかったと思う。みんなで一個の絵を布に作るみたいな。結構でかい、畳一畳くらい。それでまず優勝したんだよね。うちのクラス。で、わーっ、やって良かったって。二年生はコナンの劇で、で優勝して。三年生も市民ホールで劇して優勝したの。で、私高校以外は結構人をまとめるのが好きだったのね。中学校とか小学校とか、大学もそう。部長とか、代表委員とか。でも高校は違ってた。高校ではクラスが三年間一緒の人が四、五人居たのね。で、ずっと私が出席番号二番で、ずっと私の前にAちゃんって女の子がいたんだけど。そのAちゃんが結構、番長みたいな、女番長の頂点みたいな。絶対クラスをまとめるみたいな人だったから。逆に私はその、裏方をめっちゃまとめたんだよね。劇とかだったらAちゃんが出演者をまとめ

て、私は裏からを全員まとめる。だけどここ(Aちゃんと語り手)はめっちゃ親友だから上手く連携が取れるみたいな。それが年々強くなっていくっていう(笑)。本当相棒みたいな。でね、そもそも我自己表現が好きだったから、それを発揮できた。裏方で。一年生の時はね、担任が坂ちゃんだったの。坂一平先生、そう。(現在は)教頭だった。三十歳、はやほやくらしいの。(映像制作は)今で言うAIみたいななかなか、人工知能。そういう新しいのとかに、坂ちゃんだった気がするな、迷ったらとりあえずやる！ みたいな。坂ちゃんか中学の先生どっちか。でまあ、その後田辺、田辺で。田辺はさ、基本放置なのよね。「私が居なくてもこのクラス成り立つね。」みたいな。ずーっと言ってて。だから(クラスの)みんなが一緒になって、素晴らしいものを作り上げたみたいな学祭だった。それはもうそれは青春だったね。楽しかった。

*

現在

―写真ってでも、一人で完結するんですか？鏡の反射をやってる人がいたりとか。

あー。いやでも、基本一人でできるから、うん。鏡の反射も(自分が)やるし。写真はカメラマンだけ行けばできるから、編集も私が全部やってるし。お客さんとのやりとりも私がやるし、営業も私がやるし、みたいな。本当、替えの効かない良い仕事だよな。

―猪飼さんはどういう(写真の)世界観なんですか？

よく言われるのが、懐かしい感じだって。懐かしくて、あったかくて、匂いが伝わってくるってよく言われる。こういう、(撮影風景が)農業の現場だとほっこりできるんだけど、逆にこう、インスタとかこういうキ

ラキラした世界観とか。(実際に写真を提示しながら)

―わぁ、凄い。急に世界観が変わった！

そう、こういうのになるとちよつと離れるけど、私の世界観を守りたいよねっていう。なんとなく、私を感じて！　っていう。私味を出すように頑張ってるかな。

*

―今の段階での人生におけるジェラシーの先ってなんですか？

なんだろう、今はね、落ち着いてるといふか(笑)。今はとりあえず健康と安全。家族がいるから、実家にみんな住んでるんだけど。

みんな、体調が万全じゃなくて。病気がたりだとか、介護したりだとか、そういうのがあるから。その家族を守りながら仕事をしなきゃいけないっていう環境に今変わっちゃって。色々あるから、無理しすぎないようにしてる。それを全部担保した上で、のびのびするっていう風に過ごしてる。その上でまあやりたいことみたいなのは常に考えてるから。めっちゃ小さいことでも、鬼滅見に行くでもいいし(笑)。あ、今日温泉行こうとか。ちよつとでもやりたいなって思ったことは、全部するようにするし、やりたいことを見つけてるようにしてる。人生この先十年の目標っていうより、毎日毎日のやりたいことを見つけてる感じ。もちろん結婚もして家庭も持ちたいけど、ちよつとそれは置いて、とりあえず今は目の前でやりたいなって思ったことをもう、能動的にやってる。全然失敗しても良いって思ってるし。なるべく止まらないように頑張ってる。

―フォトグラフアーとしてのキャリアについて目標とかはありますか？
どうかなあ。たまたま今は、写真がフィットしてるって思っちゃってるだけなんだよね。私の表現方法として。でそれがたまたまお金にな

って、たまたま私の写真が時代に合っちゃってるだけで。多分それは、どっかでダメになる時が絶対来るんだよね。時代に合わなくなる時が。もちろん自分が変わればどうにかなることもあるけど、変わりがたくない方向に変わる時が絶対来ると思ってる。A I然りCG然りさ。多分そういう壁がいつかはできるから、それまでは写真でやって。またそうなたらもう一度学校(音大)通ってもいいし。何かを表現することは絶対やりたいから、仕事として。どんなにかしら繋げていきたいかな。あんまりこう、カメラマンずつとやりたいですっていうんじゃ全然ない。自己表現の手段として、これっていうこだわりはなくて、今はたまたま(写真が)フィットしてるだけ。

*

私ね、基本自己肯定感めっちゃ高いから。つい最近さ、私あんまりお化粧をしないんだけど。なんでってマジで聞かれたの、お友達に。で、憧れのメイクとか、こうなりたいとか、ないの？　って。使いたい化粧品とかも、そういうこと言われて、ないなあって。それがなんでだろうって思ったら、自分の顔がめっちゃ好きなの(笑)。形、色、全部好き。そういうのが根っこにあるから、頑張ってる自分も好きだし、失敗する自分も好きだし。寝坊しても、そうだよー眠いよねーって。なんでも肯定してる、自分のこと。甘いじゃないけど、厳しくはしてるし無理も全然するけど、自己肯定感は常に高く。自己承認が最強なんだと思う。失敗しても、そこを愛しちゃう感じ。壁に当たっても、あー乗り越えるの(目標)ができちゃうみたい。すぐ自分を鼓舞しちゃう。だけど、めっちゃ完璧主義だわ、私。会社でめっちゃ言われてる。完璧主義って自己肯定感低くなりがちだけど。完璧にしないことがないっていう。やばいよね(笑)。失敗も見込む完璧にする。(失敗しても)ズーンとはしな

い。

「一概に言う」と主語でかいんですけど、誤解を恐れず言うなら、若い世代の人は結構自己肯定感低めというか。それが問題視されてるみたいな話があつて。

うん、いや本当そう思うよ。この間の学生さんなんかも、「私めっちゃバカなんです」みたいな、すごい言つて。真正面から私めっちゃ頭悪いんですよ！　つて言われて、なんて返そうと思つて。「ああ、頭悪いんだ！　そうかあ、まあまあ良いんじゃない」つて返しちやつた。会社の後輩とかもめっちゃ（自己肯定感）低いなつて。別に、（SNS上にいるような）完璧な人じゃなくても良いんじゃないかつて。

＊

今までとこれから

「芸大生に囲まれてたら、私だけ違うみたい。そういうの感じないみたいなのおっしやられてたし、すごい周囲の環境に対して自分が常に一貫してるなつて印象があります。」

それもさ、幼少期にめっちゃ繋がつて。ちっちゃい頃、人と違うことが特別で誇らしいつてずつと思つて。そもそも名前がひらがなじゃない（笑）。栗東に住んでたんだけど、守山の保育園に通つてたから、その保育園でゲットしたものを小学校に持つていったらみんなと形が違うやん。お習字セットとか、絵の具セットとか、鍵盤ハーモニカとか。全部違くて、それがなんか、快感だったの。私だけが一うみたいな。そういうなんか、変な子で（笑）。だからずつとそういうマインドで生きてる。人と比べるみたいなのを、まあ比べるけど、劣等感とかではないね。どっちかというとジェラシーだから。じゃあ勝てば良いやんみたいな（笑）。自分にちよつとでも可能性があるならやる。そういう、変な子

でした。それで、あんまチンタラしないというか。すぐ行動しちゃう。

SNSなかったから。それがデカかったかも。比べるあれ（対象）がなかったから。目の前のこいつとしか比べらんない。どっかのわからん天才を見れなかったから（笑）。それがデカいと思う。

＊

「自己表現を自分の中で一番大事にした理由つてありますか？」

おこがましいんだけど、才能あるつて思つてたから。絵とかはできなかったけど、学校の賞があるやつ（美術、書道、音楽などの芸術分野における展覧会及び大会にて授与される賞）とかも全力で取り組んでたし。そういうので賞もらうと、自己肯定感上がるみたい。そういうので多分、謎の自信がずつとある。

「自己表現が、自分のアイデンティティというか、自己確立になったという。こと。なるほど。」

そうそう。本当、やばいよ。才能あるつてずつと思つてた。

＊

父ちゃんが神様は乗り越えられない壁を与えないみたいなこと言つてたから。確かにそうだなと思うし。なんだろう、それで良いんだよとは思うけど、やれると思うんだつたら、一ミリでも。やつたほうがいいよ。人生に後悔がないのはこのマインドのおかげだと思う。（後悔は）なんもない。全部が糧になつて。失敗しても、クヨクヨしないようにできてる。そうね、後悔するきっかけなんていっぱいあったと思う。私がメンタルが違つたら、めっちゃや病んでると思う。めっちゃ辛いし。近所の人とか、周りの人から、結構「介護辛いでしょ、大変だね」みたいなこと言われるんだけど。逆に、めっちゃ家族といられる時間が増えたし。東京から帰つてこれたし（コロナ明け、体調を崩した弟と父の介護のため

会社を辞職し独立。滋賀に帰省した。近くにいれるし。(体調を崩したことを) ありがたいとは思ってないけど、健康で長生きすることが一番だし。まあ、普通の人というか、普通のメンタルだったら落ち込んでるところでも落ち込まないように作り上げてるって感じ。でもどっかで病むだろうね。天涯孤独になったら病むと思う。うん、自分の落ち込むことも把握してる。それだね、すごい。マジすごいわ。ははは。

【感想】

今回のインタビューでは、勉強させて頂いたことが沢山あります。私たちの生きている社会は、簡単に世界中にアクセスして、簡単に世界レベルというものを見ることができます。つまり、自分と比較するハードルがあまりに高い。だから己に失望し、焦燥感を覚えます。けれど、比較して生じる感情が焦燥や失望ではなく、ジェラシーであれば、比較も糧になると思います。目の前にある立命館での生活は、常に機会で溢れています。世界をぼんやり見つけているだけではなく、ジェラシーを燃やして転がっている機会を掴み、日々精進したいと思っています。



左：語り手 猪飼ひよりさん
右：聞き手 伴 苺